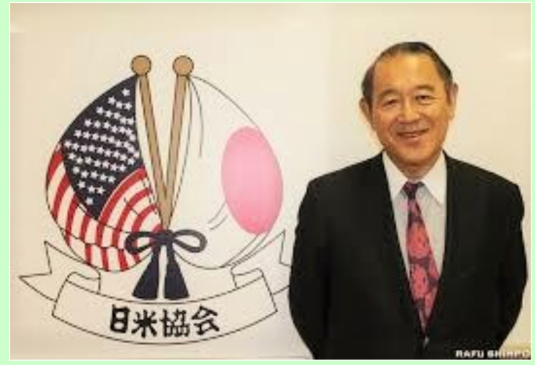


~ Special Contribution ~

JAAGA 創立 20 周年特別寄稿 前駐米日本大使 藤崎一郎

Mr. Ichirou Fujisaki
Former Japanese Ambassador to the U.S.

ワシントンのジャガ



「尾崎一佐、入りますっ。今度ジャガがまいります。よろしくお願ひします。」空の防衛駐在官が大使室に入ってきた。防衛駐在官が入ってくるときはすぐわかる。背広のときでも入り

口で姿勢よく起立して申告する。すがすがしい。にわか将官になった気分になれる。文官はたいていの場合、てれてれ入ってきて机のそばまで来たら「あの一、ちょっといいですか」と来る。何省出身でもあまり変わりはない。もっとも私も若い頃から文官としてずっと同じようにてれてれやってきたからけってて文句は言えない。

「ジャガ、なんじゃそりゃ、猛獣か英国車か知らないが空自となんの関係があるんだ」と思った。しかしこちらも官僚生活40年である。伊達に飯は食って来ていない。「一体なんのこどだ」なんて聞かない。「ん、ソファで説明を聞こうか」とおもむろに着席を促す。

「大使よくご存知のとおり空自OBで日米関係に携わった将官がつくっているジャガ(JAAGA)」という団体が、今度週末にワシントンに来ます。遠竹元空幕長が団長で大使によろしくとのことです。エバハート元大將がパーティーをさせていただきます。」

「そうか、あのJAAGAがやって来るのか。遠竹さんならよく存じ上げている。お時間があるなら食事会でもよろう。」

旧知の元空自幹部の方々が来られ、公邸で昔話に花を咲かせた。さらには翌日の夕刻、エバハート元大將の自宅でのバーベキューにも夫婦で参加した。同氏は在日米軍司令官もつとめ、米空軍きっての日本好きである。深い緑の森に囲まれた別荘のような家の中は日本の思い出の品でいっぱいである。奥の居間の中央にひかえるのはエバハート氏ご自慢の50センチもあろうという茶色の巨大な将棋の駒である。王将でなく大將と書いてある。書を能くする遠竹さんが山形の天童で特注し、自ら筆を執ったと聞いた。

やはり在日米軍司令官経験者のマイヤーズ元統合参謀本部議長夫妻ほかの日本関係者も加わった。話題の中心は昼間行われた

両国OBの対抗ゴルフである。エバハート氏はハンディがシングル級とのこと。米軍の中でもゴルフというと空軍ということになる。「なぜなの、飛ぶものが好きだからかい」と米海軍の友人に聞いたことがある。「違うよ、我々はふだん海の上だし、陸軍や海兵隊は、しょっちゅう行進訓練させられていて、歩くのこうざりしているんだ。空軍の連中ときたら、飛行機から降りたら地上では他になにもすることがないからだよ」との返事が返ってきた。もちろん出来の悪いジョークである。

緑につつまれ、陽光のもと、ビールを飲みながら、冗談をどばしつっ楽しそうにゆっくりくつろぐ日米の空の元将官たちには、かつて勇猛果敢と言われた面影はなかった。壮絶な任務を果たした満足感、懐旧の想いが共通しているようだった。武人の中には国境を越えて濃いつながりがある。残念ながら同様に国益を背負う外交官同士にはそういう関係はない。仲間意識がOBになっても続いているなんてじつにうらやましい。いいなあ。

外薊前会長、岩崎新会長はじめ皆様、JAAGA20周年、本当におめでとうございます。

ジャガ?



at Ambassador Fujisaki's residence



Signing Ceremony (Gen. Myers & Gen. Eberhart)
"United States Military in Japan Alumni Association"
in May 2015